

令和5年度 第5回久御山町上下水道事業経営審議会 議事要旨

日 時	令和6年3月12日（火） 14:00～15:15
場 所	久御山町役場5階 会議室51
次 第	1 開会 2 会長挨拶 3 議事 (1) 令和4年度久御山町下水道ビジョンの事後検証について (2) 今後のスケジュールについて 4 閉会
出席者	(委員) 西垣会長、伊藤副会長、松若委員、水野委員、寺井委員、大日方委員 欠席：曾和委員、久保田委員 (事務局) 吉田上下水道課長、内田課長補佐、三上課長補佐、岩上係長

会議

1 開会

- ※ 会議成立の報告
- ※ 関係人の出席の確認
- ※ 配布資料の確認

2 会長挨拶

- ・ 昨年の秋以来、雨が降らず、琵琶湖の水位が一時期マイナス70cm程度まで減少していたが、2月、3月と雪と雨が降り、なんとか今マイナス20cm程度まで改善し、一安心している。
- ・ 昨年度始まった水道事業ビジョン（第2次）案の審議については、1月に最終的に議論していただき、2月初めに町長に答申をしたところである。
- ・ 本日は、本審議会でも令和2、3年度と議論した下水道ビジョンの進捗状況についての審議となる。

3 議事

- (1) 令和4年度久御山町下水道ビジョンの事後検証について
 —事務局説明—

会長

- ・ 令和4年度の下水道ビジョンの事後検証については、概ね良好な値が記録されており、また、その評価も好調なものが多い。

副会長

- ・ 2ページにある有収水量の推移について、令和2年度がコロナの影響により家事用が

増加し、営業用が減少したとあるが、これにより負荷率に影響はあったのか。

- ・家事用が巢ごもり需要で常時使用していれば平均的な水量が多くなり、それを日最大水量で割って負荷率は算出するので、100%に近づくのではないか。

事務局

- ・下水道に関しては、汚水処理施設を町単独で保有しておらず、日々の処理量がわからないため、日最大水量等も把握することができず、負荷率も把握できない。
- ・水道に関して言えば、それほど大きな影響があったという認識はない。

副会長

- ・8ページにあるカメラ調査について、定期的ということだが、数十年に1回程度か。
- ・この点検・調査によってなにか見つかри、修繕に繋がったような実績はあるのか。

事務局

- ・本町の本管延長約107kmのうち、圧送管が7kmあり、カメラ調査ができる自然流下管は100kmとなる。
- ・その自然流下管100kmを40年間で一回りするという内容で、ストックマネジメント計画の中の点検・調査計画を策定している。
- ・鋭意、今カメラ調査を進めているが、その中で、修繕・改築が必要と判断されたものに対し、管渠改築工事、人孔鉄蓋更新工事を行ってきている。

副会長

- ・古いところから優先的に点検しているのか。

事務局

- ・管渠に対してそれぞれ管径、管種、施工年度に基づきランク付けで優先順位を付けており、その優先順位の中で、やはり古い管渠は優先順位が高くなる。
- ・本町の下水道事業は非常にまだ若いのが、一部民間開発により布設された管渠を引き取ったものがあり、それはもうすでに施工後50年経過している。
- ・その地域の管渠について、まず全てカメラ調査を終え、鋭意、悪いところは更新を行っている。

委員

- ・流域下水道建設負担金について、府の事業が入札差金で予定額から大幅に減少したとあるが、それだけ安い値段で大丈夫かという心配がある。

事務局

- ・流域下水道の汚水処理場は非常に規模が大きく、事業費も大きくなるため、入札による差金も大きくなる。
- ・洛南浄化センターについては、鋭意更新を行っており、また、京都府南部の汚水量がまだ増加傾向にあることを受け増設もしており、問題なく事業は進められていると認識している。

委員

- ・8ページにある管渠改築済延長と人孔鉄蓋更新済箇所の数値目標と実績値の対比について、令和4年度の目標値と実績値が同じになっているが、目標を見ながら実績を調整しているということがあるのか。

事務局

- ・下水道ビジョン策定時に、令和8年度までは工事の設計が既にあり工事箇所も決まっていたため、それを目標値としており、令和4年度は、それに基づき工事を実施しているため、実績値も同じ値となっている。

委員

- ・久御山町でみなくるタウンという構想を大々的に掲げており、有収水量などの面で良い材料になると捉えているが、下水道事業に対する影響として、事務局はどのように考えているか。

事務局

- ・下水道ビジョン策定時には、みなくるタウンの開発によって定住促進が図られることを見込み、人口推計を国立社会保障・人口問題研究所の推計のうち、社会動態封鎖型推計を採用することとした。
- ・企業誘致については、どういった企業が進出してくるか予測が難しいため、下水道ビジョンには反映してはいないが、企業進出により有収水量が計画値より上振れすることを期待しており、また、5年毎の見直しに際して反映していければと思っている。

委員

- ・いつごろから影響してくることになるのか。

事務局

- ・みなくるタウンについては、産業立地促進ゾーンと住街区促進ゾーンとして、産業系と住居系に区分しながら、現在鋭意、面整備を進めている。
- ・地権者が主体となった土地区画整理事業をもって基盤整備をしていく手法であり、現在、組合設立に向けて動いているが、早く令和8年から9年ぐらいに、現場の形が見えてくるのではないかと考えている。

副会長

- ・8ページにあるカメラ調査と管渠改築について、カメラ調査は40年で一巡するスピードであり、管渠改築は60年で一巡するスピードであるが、この違いの理由を教えてください。

事務局

- ・カメラ調査については、調査対象の自然流下管が100kmあり、それを40年で一回りすることとしている。
- ・管渠の改築については、国土交通省の研究機関である国土技術政策総合研究所が管渠の劣化予測式を出しており、この予測式を用いて、速やかに改築をしなければならない状況を示す緊急度1が発生しないように改築するとして計算したものが、年間1.7kmの改築延長である。
- ・令和元年度からカメラ調査を本格的に実施しているが、本町は全体的に管が若いということがあり、劣化予測式と比較して管渠の劣化状況がそれほど進行していないということがカメラ調査の結果把握できている。
- ・カメラ調査を随時実施していく必要があるが、その中で管渠が健全であるならば、令和9年度以降も年間1.7kmの改築をする必要がなく、計画も見直していくことになる。

委員

- ・災害に強い安全・安心な下水道について、本来の目標は安全の確保であると考えているが、

カメラ調査の実施率については、手段が目標になっているのではないかという懸念がある。

会長

- ・例えば令和4年度にカメラ調査をした結果、予想よりも状況は良かった、悪かったなどの評価、結果はあるのか。

事務局

- ・令和4年度については、カメラ調査を約3km実施しているが、その中で緊急度判定としては、速やかに改築すべきとする緊急度1が40m、概ね5年以内に改築すべきとする緊急度2が約80mという結果であり、3kmに対する割合としては非常に少なく、本町の管渠の健全性は高いと感じている。

会長

- ・耐震診断済延長という目標もあるが、久御山町は管路も新しいため、耐震性能も比較的高いと見てよいか。

事務局

- ・水道については、耐震継手という伸縮可とう性がある耐震管を布設することで耐震化を図るが、下水道は少し考え方が違い、土質の状況を十分に精査したうえで、実際にその場所が耐震性を有しているかどうか詳細な調査を行う必要がある。
- ・本町は、阪神淡路大震災後、マンホールと管渠の継手部分に可とう性のある部材を使用しているため、一定耐震性を有しているとは考えてはいるが、管渠については、土質も含めてしっかりと耐震の計算をしなければならないため、管の更新工事に併せてしっかりとその定量的な評価を実施しているところである。

会長

- ・節水機器を付ければ補助金が出るというテレビCMもあり、一般の消費者は当然そちらを購入することになるため、節水になるのは当たり前とを感じるが、その影響で水道料金が上がることについて疑問を感じてしまう。

会長

- ・節水については、水道、下水道共通の課題である。
- ・久御山町は人口減少がそれほど急速に進んでいないため、家庭用の水需要の低下は、主に節水機器の普及が原因ではないかと思うが、事務局の見解は。

事務局

- ・家事用一人当たり有収水量は、これまで大きく減少してきていたが、近年、一定減少幅は落ち着いてきている。
- ・一世帯の水の使用については、基礎水量があるため、世帯員が一人増加したからといって倍になるわけではなく、世帯員の増加に伴い少しずつ水量が上乘せされるイメージとなる。
- ・一世帯当たりの世帯員の人数が減少してきているため、一人当たりの有収水量の減少幅は少し落ち着いてきていると考えている。
- ・水道も下水道も設備産業であるため、水量が一定減少したとしても必要となる経費はそれほど下がらないことから、有収水量が減少すればどうしても単価が上がってしまう。

- ・これは全国的にどの水道事業、下水道事業も抱える課題であるが、そのことも踏まえて料金のあり方も含めて、考えていかなければならないと考えている。

会長

- ・節水自体は環境には良いことであるが、節水が進むと水道施設等の維持に負担がかかり、料金に負担がかかる。
- ・水道も下水道も同様だが、この状況を乗り切るためには、周辺市町村との連携を進め、事業規模を適切なものに近づけていくことと、非常に難しいことではあるが、まちのコンパクト化を進め、人口規模が縮小しても施設の効率性が低下しないようにすることを目指していく必要がある。
- ・久御山町の下水道事業は、水道事業とは違い、経営はかなり健全に進んでおり、計画以上に良い値もあるが、今後はやはり更新投資も問題になるし、水需要の低下に伴って経営も圧迫されることとなるため、今はできるだけ企業債残高を減らし、資金余剰をできるだけ持っておくという時期であると思う。

(2) 今後のスケジュールについて

―事務局説明―

4 閉会

※ 閉会の挨拶

事務局

- ・来年度は、新しい水道事業ビジョン（第2次）に基づき水道料金の改定に係る審議をお願いすることとなり、タイトなスケジュールとなるが、委員の皆様には、引き続き協力をお願いしたい。
- ・また、来年度6月には、水をテーマとしたシンポジウムの開催も予定しているので、都合があれば参加いただくよう重ねてお願いしたい。

【散会】

以 上